

## 31 言語聴覚学科教官による臨床見学実習の効果について

学院 言語聴覚学科 阿部晶子, 北 義子, 下嶋哲也, 坂田善政

### 1. はじめに

臨床実習は、言語聴覚士養成のカリキュラムの重要な位置を占める。当学科では、2年次の6月以降に当センター病院および外部施設での臨床実習を開始するカリキュラム構成になっている。学生は、2年次になったばかりの時点では、講義で学んだ知識を統合して、実際の患者様の状態を理解することが難しい。当学科では、昨年度はじめての試みとして、臨床実習に先立って、病院で言語聴覚士を併任している教官の臨床を見学させる機会を設けた。その結果は昨年度の本発表会で報告した通り、ほとんどの学生が意義を感じたものの、実際に役立てることができた学生は6割程度にとどまった。そこで、今年度は、より高い効果を得るために、見学対象とする障害類型を増やし、臨床実習日誌の書き方について具体的な指導を行った。本発表ではこのような改良による効果について考察したい。

### 2. 今年度の臨床見学実習の改良点

臨床見学実習は、2年生27名を対象とした。実施期間は4～5月で、内容は教官が行う言語聴覚療法の見学である。今年度の改良点は以下の通りである。担当する教官数を3名から4名と増やした。対象とする障害類型数を、昨年度の小児聴覚障害、失語症・高次脳機能障害、言語発達障害に、吃音、構音障害を加え3種類から5種類とし、見学回数も3回から4回と増やすことにより、質・量ともに充実を図った。また、見学後に提出される実習日誌に対しては、教官が毎回添削をすることにより適切な記述方法・内容を指導した。

### 3. アンケート調査の結果

前期臨床実習（6～7月）の終了後に質問紙調査を行った。臨床実習先の内訳は表1、対象は表2の通りで、昨年度とほぼ同様であった。臨床実習先で学ぶ機会があった障害類型も昨年度と大きな違いはなかった（表3、4）。実習日誌については、記載に要する時間に有意な変化はなかったが、1.5時間以上もの時間を要した学生の割合はやや少なくなっていた（表5）。

教官による事前の臨床見学実習については、「意義があった」とする回答は、昨年度も89.3%と高かったが、今年度は100%の回答が得られた。さらに、「役に立った」とする回答の割合が、昨年度は57.1%に留まったのに対し、今年度は88.9%と有意に高くなった（ $\chi^2(1)=6.984, p<.01$ ）。臨床見学実習の良かったと思うところについては、表6の通り、各項目とも全体として昨年度よりも高い回答が得られた。特に、今年度の指導方法を改良した実習日誌に関しては、練習の機会になったとする回答が最も多く得られた（85.2%）。また、フィードバックの受け方について学ぶ機会になったとする回答の割合が有意に高くなった（ $\chi^2(1)=4.123, p<.05$ ）。

### 4. 考察

臨床見学実習を、昨年度の結果をふまえて改良を加えた結果、一定の成果を上げることができた。特に、指導に力を入れた実習日誌の指導に対しては、学生の役に立つものであったことが示された。また、実習日誌の指導は、フィードバックの受け方を学ぶ機会を提供する意味があったと考えられた。

表 1 臨床実習先の内訳

内訳	昨年度 (H22)	今年度 (H23)
病院	75.0	78.1
療育センター	15.6	15.6
その他	9.4	6.3

(単位：%)

表 2 臨床実習先の内訳

内訳	昨年度 (H22)	今年度 (H23)
成人	65.6	65.6
小児	34.4	34.4

(単位：%)

表 3 臨床実習先で学ぶ機会があった障害類型

障害類型	昨年度 (H22)	今年度 (H23)
嚥下障害	62.5	66.7
失語症	56.3	63.0
高次脳機能障害	53.1	51.9
言語発達障害	53.1	48.1
Dysarthria	50.0	66.7
機能性構音障害	37.5	44.4
器質性構音障害	21.9	7.4
吃音	18.8	29.6
聴覚障害・小児	18.8	25.9
聴覚障害・人工内耳	12.5	14.8

(単位：%)

表 4 臨床実習先で学ぶ機会があった障害類型数 (実習生 1 人当り)

障害類型数	昨年度 (H22)	今年度 (H23)
1 種類	0.0	0.0
2 種類	10.7	11.1
3 種類	14.3	7.4
4 種類	35.7	37.0
5 種類	14.3	25.9
6 種類	7.1	14.8
7 種類	10.7	3.7
8 種類	7.1	0

(単位：%)

表 5 実習日誌に要する時間

障害類型数	昨年度 (H22)	今年度 (H23)
0.5 時間未満	0.0	3.1
0.5 時間以上 1 時間未満	34.4	25.0
1 時間以上 1.5 時間未満	18.8	34.4
1.5 時間以上 2 時間未満	28.1	25.0
2 時間以上	18.8	12.5

(単位：%)

表 6 臨床見学実習の良かったと思うところ

障害類型	昨年度 (H22)	今年度 (H23)
臨床実習に対する心構えをつくるきっかけになった	78.6	81.5
実習日誌の書き方を練習する機会になった	71.4	85.2
見学する際の記録の取り方を学ぶ機会になった	60.7	70.4
見学の仕方について学ぶ機会になった	28.6	33.3
見学した内容について、教科書やノートを調べることで知識を整理することができた	17.9	14.8
フィードバックの受け方について学ぶ機会になった	10.7	33.3
臨床の場にあわせて服装、髪型を整えるきっかけになった	7.1	3.7

(単位：%)